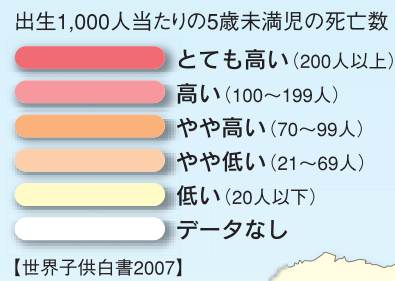


5歳未満児死亡率



活動している国と地域

例: 国名 ユニセフが子どものための支援活動をしている国と地域

国名 ユニセフ国内委員会が活動している国と地域

国名 ユニセフとユニセフ国内委員会が特に活動していない国と地域

【2007年1月現在】

5歳未満児死亡率世界地図

ユニセフとユニセフ国内委員会が活動している国と地域

ユニセフは3つの基準から、その国と地域で支援活動を行うかどうか決めています。

- 5歳未満児死亡率
- 国民1人あたりの所得
- 子ども(18歳未満)の人口

ハイチ



施設「紅の家」で食事時間に抗レトロウイルス薬を飲む女の子。ユニセフはHIV母子感染率を下げるための支援や約20万人にわたるハイチのエイズによる孤児への支援などを行っています。

アフガニスタン



カブール郊外の小学校で文房具を受け取る子ども達。2002年以来、小学校に通い始めた女子は約120万人。その数を増やすため、今も活動を続けています。

カンボジア



性産業で働く女性。経済的困難などのために性産業で働くカンボジア女性の35%は18歳未満。彼女が持っているポスターなどを使って、働く子どもたちをエイズから守る啓蒙活動をユニセフは行っています。

ユニセフ本部と地域事務所

現地事務所のほかにユニセフの本部と地域事務所があります。

本部: ニューヨーク/米国
ヨーロッパ地域事務所: ジュネーブ/スイス
中部・東部ヨーロッパ、独立国家共同体地域事務所: ジュネーブ/スイス
東部・南部アフリカ地域事務所: ナイロビ/ケニア
西部・中部アフリカ地域事務所: アビジャン/コートジボワール
米州とカリブ海諸国地域事務所: パナマ市/パナマ
東アジア太平洋地域事務所: バンコク/タイ
中東と北アフリカ地域事務所: アンマン/ヨルダン
南アジア地域事務所: カトマンズ/ネパール
物資供給センター: コペンハーゲン/デンマーク
そのほかの供給倉庫: ヨハネスブルグ/南アフリカ ドバイ/アラブ首長国連邦 パナマ市/パナマ
イノチェンティ研究センター: フィレンツェ/イタリア
ブリュッセル事務所: ブリュッセル/ベルギー
東京事務所: 東京/日本

※トルコはユニセフ事務所とユニセフ国内委員会の両方があります。

スーダン・ダルフール



長引く紛争により、これまでに200万人以上が家を失いました。2006年、緊急物資の支援のほか、ユニセフは955ヶ所の給水設備の修復・管理によって、70万人の避難民に水を届けました。新しい給水設備も増やし、衛生知識の普及を進めています。

バングラデシュ



はしかの予防接種を受ける子ども。ユニセフは、3,500万人の子どもを対象に全国的なはしかの予防接種キャンペーンを行っています。世界におけるはしかによる死亡数は、1999年～2005年の間に60%の削減を果たし、大きな成果をあげました。

子どもたちのための

ユニセフの主な活動分野

ユニセフは世界の子どもたちが生存し、健やかに成長できるよう他の国際機関、政府、NGOなどと協力しながら次の5つの特に重要な活動分野において、中期事業計画(2006年～2009年)をたてて活動しています。

ユニセフ中期事業計画と国連ミレニアム開発目標

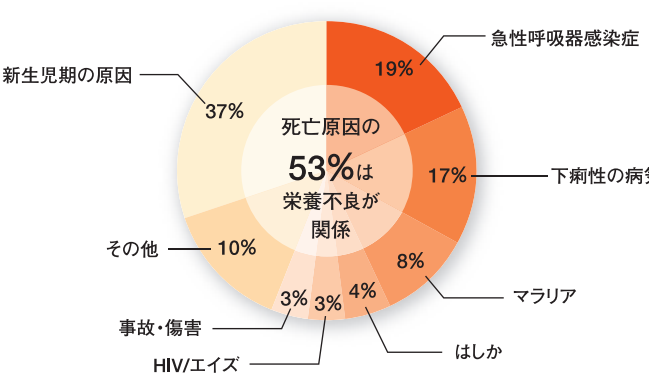
ユニセフは、中期事業計画の中で国連ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)の達成を他の国際機関や国際社会とともにめざしています。ミレニアム開発目標とは、2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言に示された課題と、90年代に採択された国際開発目標を共通枠組みとしてまとめたもので、極度の貧困と飢餓の撲滅や、普遍的初等教育の達成など、8つの項目において2015年までに達成すべき具体的な数値目標を設けています。ミレニアム開発目標の詳しい目標については日本ユニセフ協会ホームページ www.unicef.or.jpへ。

1 十分なケアを乳幼児に

子どもの生存と成長

世界で5歳の誕生日を迎えずに命をおとす子どもの数は年間約1,050万人。その原因の多くは、安全な水やワクチンがあれば防ぐことができるものです。ユニセフはすべての子どもが乳幼児期に十分なケアをうけ、健やかに育つことをめざして活動を行っています。ワクチン、失明を防いだり体の抵抗力をつけるビタミンA、マラリア予防用の蚊帳などを提供したり、母乳育児・栄養のある食事のとり方について母親に伝えるほか、きれいな水の確保と衛生環境の改善などに取り組んでいます。

■表1 開発途上国の5歳未満児が命を失う主な理由 2002～2003
【出典: World Health Report 2005】

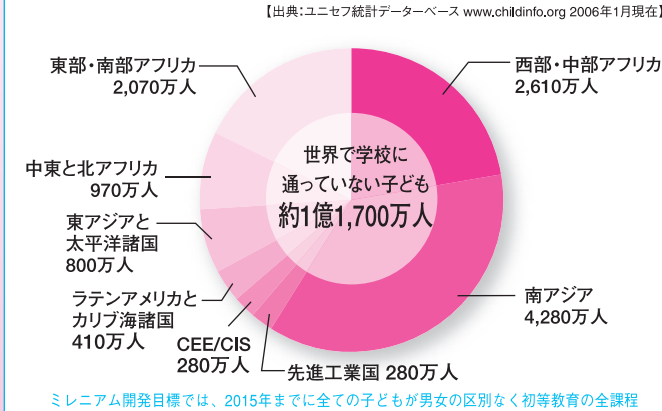


2 すべての子どもに教育を

基礎教育とジェンダー格差の是正

世界で学校に通っていない子どもは約1億1,700万人(そのうち6,200万人は女子)。ユニセフは、男子も女子も等しく、すべての子どもが学校に通いまた修了できるよう、教材・ノートなどの文房具、黒板など学校で必要なものを届け、学校に衛生設備(井戸やトイレ)を設置したり、また教師にはトレーニングの機会を提供しています。女子への教育はのちに女性の社会参加を促進するだけでなく、やがて母親になったときに、生まれてくる子どもを健康に育てることを可能にします。さらに子どもの死亡率や、出生数を減少させるともいわれています。

■表2 学校に通えない子どもの数 地域別 2004
【出典: ユニセフ統計データベース www.childinfo.org 2006年1月現在】

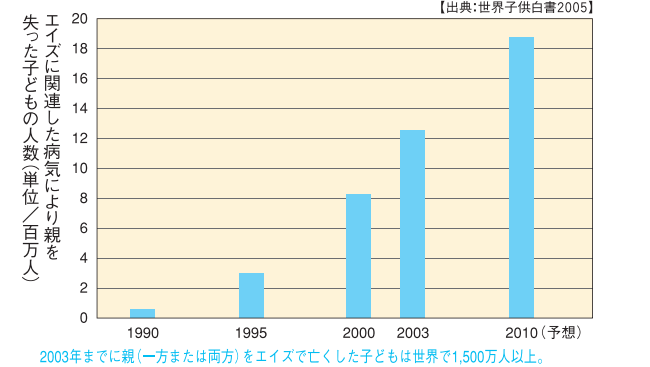


3 エイズと闘う

HIV/エイズと子ども

15歳未満の子どもが1分に1人、HIV/エイズに関連した病気で命を落とし、さらに15歳～24歳の若者が15秒に1人、HIVに感染しています。HIV/エイズは猛スピードで広がっているのです。ユニセフは母子感染や若者の感染拡大を防ぐための教育を行い、またエイズで親をなくした子どもを支援、そして母子感染を防止するためのサービスの提供や感染者の治療などのサポートも行っています。ユニセフは国連エイズ合同計画(UNAIDS)などと協力して、2005年10月に「子どもとエイズ」世界キャンペーンをたちあげ、HIV/エイズ対策に取り組んでいます。

■表3 サハラ以南のアフリカのエイズによる孤児 1990～2010
【出典: 世界子供白書2005】



4 子どもを守る

子どもの保護: 暴力・搾取・虐待の予防と対策

児童労働にたずさわっている5歳から17歳までの子どもは世界で約2億1,800万人。また、世界で生まれる子どもの約半分は戸籍などの出生登録をされず、教育や保健などのサービスを十分に受けられないという現実があります。同じように家族や社会に守られずにいる、孤児、難民やストリートチルドレンなどは、特に人身売買や強制労働などの被害にあいやすいため、その危険から守られなければなりません。ユニセフはいわばこうした「存在しない子ども」たちを「見える存在」にして、子ども達が法的に守られ、家族とともに暮らせるような「保護的な環境」づくりを支援しています。



©UNICEF/HQ01-0145/Giacomo Pirozzi

緊急支援

インド洋周辺国で20万人を超える犠牲者をだしたスマトラ沖地震・津波(2004年12月)。ユニセフは発生から6ヵ月間で120万人の子ども達にはしかの予防接種を実施し、100万人以上に安全な水が手に入るように支援しました。またユニセフ「バック・トゥ・スクール」キャンペーンなどによって地震発生3ヵ月後までに、90%以上の子どもが学校に戻ることができました。「学校に通う」ことは、災害前と同じ生活リズムを作ること、家族を失った子ども達の精神的ストレスをやわげる効果があるのです。この他、2005年のパキスタン地震やニュージーランドの早稲などの自然災害、またスーダンにおける紛争など、どのような緊急事態においても子どもたちが守られることをユニセフはめざしています。



©UNICEF/HQ02-0053/Roger Le Moyné